

日本政治だけが「世界史」に 参加してゐない

三浦小太郎(評論家)

平成28年7・8月合併号(237号)
(皇紀2676年)

新風

編集・発行人 瀬戸 開

年間購読料 2,000円

維新 新風

東京都中央区日本橋蛸殻町1-6-4
第三カネタツビル103

TEL.03-5642-0008 FAX.03-5642-0009

http://shimpu.jpn.org/
otayori@shimpu.jpn.org

【京都事務所】

〒604-0934 京都市中京区麩屋町通二条下ル

第2ふじビル4階

TEL.075-708-3700 FAX.075-708-3800

kyoto@shimpu.jpn.org

イギリスのEU離脱、アメリカのトランプ現象、そして南シナ海における中国の不当な侵略に対する仲裁裁判所による違憲判決、またヨーロッパにおけるテロと移民・難民問題など、世界はまさに決定的な転換点を迎へてゐる。しかし、この日本国だけが、先の参議院選挙においても、もちろん現在の都知事選挙においても、何ら「世界」にかかはらうとせず、自閉した戦後空間を脱しようとしてゐない。

イギリスのEU離脱について、特に日本マスコミの当初報道は不当としか言ひやうのないものだった。主として報道は、離脱に反対する、特にロンドンの若者の声を中心に取り上げ、彼らは国際主義的な開かれた意識の持ち主であり、旧弊な高年齢層が既得権益や移民排除の排外主義の精神から離脱を選択し、離脱賛成派も今は後悔してゐるかのやうに報じた。国民投票がしばしば悪しきポピュリズムを招く危険性があることや、離脱派の主張に扇動的要素があったことは事実だが、それだ

けで民主主義国家として長く成熟した歴史を持つイギリス国民が離脱を安易に選ぶはずはないだらう。

筆者はイギリスやEU全体について専門的な知識を持つものではない。しかし、EUといふ存在は、そもそもアメリカとソ連(当時)、そして中国といった世界の諸大国に対して、ヨーロッパ的価値観を共通とする諸国が連帯して一つの世界ブロックを作らうとした試みであったはずだ。しかし、そのEU内部では共有されてゐないはずの価値観が、今や通用しなくなつてゐるのである。一つには、シリアをはじめとする移民・難民の大量流出によつて、EU諸国がつひに「自由、人権、ヒューマニズム」の精神に基づく難民保護といふ建前がすでに通用しなくなりつつある現実と、もう一つは、企業、そして特に若年労働者の国境を超え

た移動により、各国、各地域の共同体経済が危機にさらされてゐることだった。

現ロンドン市長サディク・カーンは離脱直後、ロンドン国際都市であり続けると宣言し、若い市民の支持を受けた。しかし、ロンドン以外の地方都市の人々が、それは大都市ロンドンだけに任せ、自分たちはこれまでの伝統様式と暮らした方、商売の仕方、そしてその上に成り立つ共同体を維持して生きていきたいといふ選択をしたことも事実なのだ。

イギリス国民の選択は、EUに代表される、各国の主権や伝統、人々の労働から生活のあり方を画一化する体制への反抗であり、イギリスをはじめ、各国がその生活文化や伝

承を維持することこそが、世界の多様化と平和をもたらすといふことを、先駆的に示唆してゐるかもしれないのだ。

トランプ現象もまた、アメリカの価値観が大きく内向きに向かふことの一つの象徴である。トランプ個人の発言やその個性は、筆者にはあまりに単純な独断、外交への無知、そして差別主義と思へるものが多い。しかしその背後にあるのは、アメリカ社会が六、七十年前から、その伝統的価値観、もつと単純に言へば、アメリカ白人の庶民感覚を、白人至上主義であり古臭い道徳感だとして否定してきたことへの反動である。トランプ現象の背後にあるのは、左右を問はず、既存の知識人やマスコミの偽善と空論への強い反

発であり、アメリカの最も無垢な価値観である、自力更生、家族共同体、そして言葉の正確な意味での反知性主義、理論やイデオロギーよりも生活感覚と素朴な信仰を人生を豊かにするものとみなすといふアメリカ的価値観を取り戻さうといふ動きなのだ。

同時に見過ごしてならないのは、これまでイスラエル支持でほぼ団結してゐたかに見えたアメリカのユダヤ人社会に、二〇〇八年「Jストリート」といふ新しいユダヤ人団体が結成されてから大きな変化が起きてゐることである。彼らはイスラエルの入植地拡大を批判し、パレスチナ自治政府との対話を求め、またオバマ大統領のイランとの核合意にも賛成した。実は今回の

しんぼうしゅう
新風驟雨

七月十三日夜七時のNHKニュースで「天皇陛下生前御退位の御意向」といふ衝撃的報道がなされた。十四日、菅官房長官は「皇族の減少の問題に関して皇室典範改正準備室が設置されてゐるが、生前退位については検討することはない」と述べてゐる。

▼現状の皇室典範のままでは、悠仁殿下で皇統が断絶する危険性は免れない。ここで皇族減少問題の解消といふことで、女系天皇容認論が復活する危険性は大きいにある。

▼わが維新 新風は皇族に「養子制度を認める」といふ皇室典範改正案を用意してゐる。即ち昭和二十一年、臣籍降下させられた旧宮家の男系皇子子孫に現宮家の養子になつて頂くことで皇統を維持するといふことである。

▼神武天皇以来万世一系、即ち男系男子で二千有余年に亘つて百二十五代君主が続いてゐる国は我が国のみであり、人類の至宝である。日本にとつてのみならず人類のために我々日本人は万世一系の皇統を守る責務がある。

▼幸ひ皇室会議議長の内閣総理大臣は男系天皇の意義を理解してゐる安倍晋三である。皇統維持のための皇室典範改正を全力で推し進める千載一遇の機会である。(か)

参議院選挙報告と 党代表辞任のご挨拶

鈴木信行

このたびの参議院選挙は東京都選挙区のみ挑戦で鈴木信行一人の出馬となりました。開票結果は四二八五八票であり、目標とした十萬票台や法定得票数には遠く及ばず、前回の七七四六五票から三四六〇七票減らす結果となりましたことは、私の力不足と不徳の致すところでございます。

選挙期間中に東京以外の党員が地方から駆け付けて下さり、そして党外支援者の皆様からも多大なご支援ご協力を頂きました。ポスター貼りは島嶼部を除きほぼ都内全域に貼りきりました。早朝七時、葛飾区内の駅立ちから夜八時の街宣終了まで運動員の皆様には都内各地に集まつて頂きました。心から感謝申し上げます。

ありがとうございます。

結党以来、維新 新風は比例代表候補を擁立して参議院選挙で政党要件の獲得を目標として挑戦してきました。私が代表となつてからの五年半の間に、二度の参議院選挙を経験しました。前回は選挙区での首都圏集中選挙を行いました。結果として二回連続して比例代表を擁立できずに終わりました。

今回の選挙結果を含め、二度の参院選で比例代表選挙ができなかつたこと、党内からのご提言と代表としての重責を果たせなかったことを考慮し、党代表を辞することを決意しました。これまでご支持ご支援いただいた党内外の皆様には御礼申し上げます。

党代表就任後に東日本大震災があり、韓国ソウルに赴き竹島の碑を慰安婦像に縛り付けたことへの刑事裁判は、今回の選挙期間中に十回目の公判が開かれ、身柄請求も含めて継続中です。私の政治活動はこれからも続きます。今後は東京都本部の一党員として党の発展に尽くす所存です。党員党友の皆様にはこれまで大変お世話になりました。

本紙目次

一頁：
●日本政治だけが「世界史」に参加してゐない

●鈴木信行代表の報告挨拶

二頁：
●新風 ニュース他